

장르: 환상, 공포, 심리

1987

출판: 정문환, 구성: 임길현, 디자인: 이연희, 편집: 오재우, 발행:

23/11/04

目次

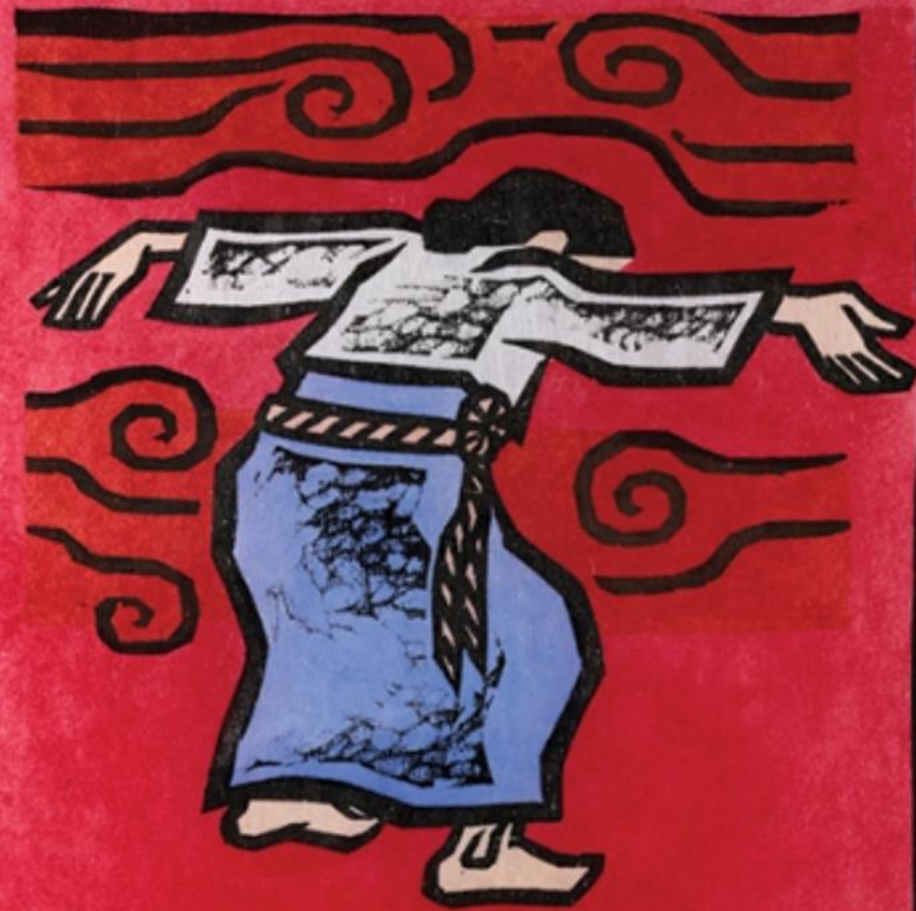
I. はじめに

II. 生命思想と東学思想のリミナリティ

III. 律呂思想と正易思想のRevitalization

IV. ヒングヌル美学に現れた甕山の和解と
相生

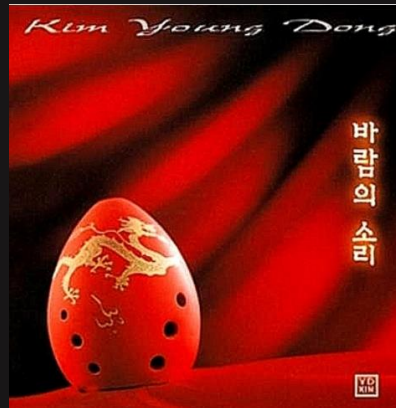
V. おわりに



I. はじめに

金芝河が遺した和解と相生

伝統と近代の和解、1987
で始まり、神秘主義
経済の復活で締めくくる



I. はじめに

金芝河追悼一周忌は

金芝河思想の曖昧さと
放漫さも糾弾している

A. 小説家キム・フンは一般人には理解困

難年
難年は内面に没頭しすぎ、人々に理解できない言葉を、後輩たちにも理解できない言葉を多く語った。.

B. 小説家チャン・ジョンイルは三大ホラ吹きと

表棍
表棍の境界は果てしなく広く、その歩みには遮るものがなかった。

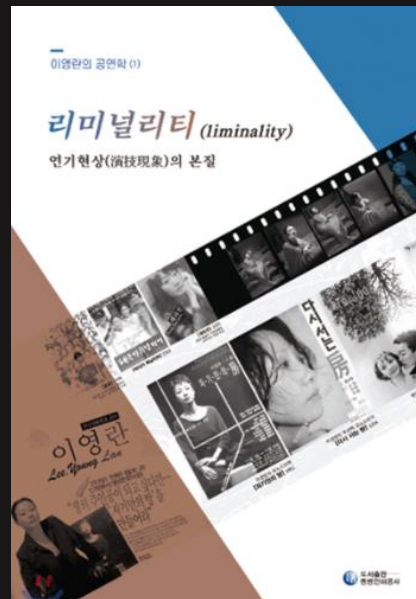
民主主義に向けた闘争と業績は紙面にあふれたが、直接訪れて彼の霊前に花を捧げる人はまれだった

C. パンソリの名唱イム・ジンテクは変節

諷を諷明
諷を諷明ん妄の症状まであったが、死の祭り、朴槿恵支持は誤解が大きかった

I.はじめに

金芝河思想の理解には リミナリティというキーワード 再活性化という一貫性が必要



I. はじめに

『リミナリティ』の理由

リミナリティは脱境界、
中間地帯であり、金芝河
の生命、律呂、ヒングヌ
ル

A. リミナリティは通過儀礼の用語である。

人間は通過儀礼で成長し、全世界の通過儀礼は「敷居」というリミナリティの中間地帯で行われる

B. リミナリティは儀礼から演劇へと進む

アリストテレスのカタルシス戯曲理論は、リミナリティ理論によって2000年ぶりに置き換えられる。京劇、マダン劇、遊びはリミナリティを美学とする

C. リミナリティはポストモダンのキーワードである

リテラチュアは意味と放漫さを特徴とするポストモダニズムを総括する用語へと発展する。これは自生的ポストモダニズムを理解する鍵にもなる

I. はじめに

リミナリティは

ポストモダニティの
キーワードとなる

現象学	脱構築主義	過程哲学	生成哲学
メルロ＝ポンティ	ジャック・デリダ	アルフレッド ホワイトヘッド	ドゥルーズ/ガタリ
個人的意識と 実際の間の 生きた経験	「間」における予測 不可能で不確定な 様相	存在は存在によって構成 されるのではなく、生成 によって構成される	存在と存在の作動原理を機械と 配置として解釈
生きている 俳優の 身体を通して 現れる 世界の顕示	「私」と「易」との「間」「間 隙」で生じる予測不可能 性	「私」と「易」 が 自ら共に 変化してい く 過程的行為 それ自体	「私」と「易」という存在ではな く、存在の間で起こる変化の様 相

I. はじめに

金芝河の批判者も

失敗すると知りながらも試みる
金芝河をリミナリティとして理解

A. 「五賊」はホモ・サケルのリミナリティ

「五賊」で金芝河は、筆先が陰しい罪で、筆先が陰しい罪でチルジョンに引かれて行き尻を打たれようとも、言うべきことは言うと言っている

B. 民族美学は植民地のリミナリティ

金芝河は文化帝国のシュルレアリスムと文化植民地のパンソリの境界を行き来し、譚詩によって東アジアを黒人三世から脱出させる

C. 左右横断は偽悪のリミナリティ

偽善とは反対に、偽悪は皆から見捨てられるリミナリティとなる。独房から出た金芝河は左を批判し、出獄してもなお自ら独房に閉じこもる。